

和歌山県の地震

令和5年6月

1. 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
概況	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 4

2. 地震一口メモ

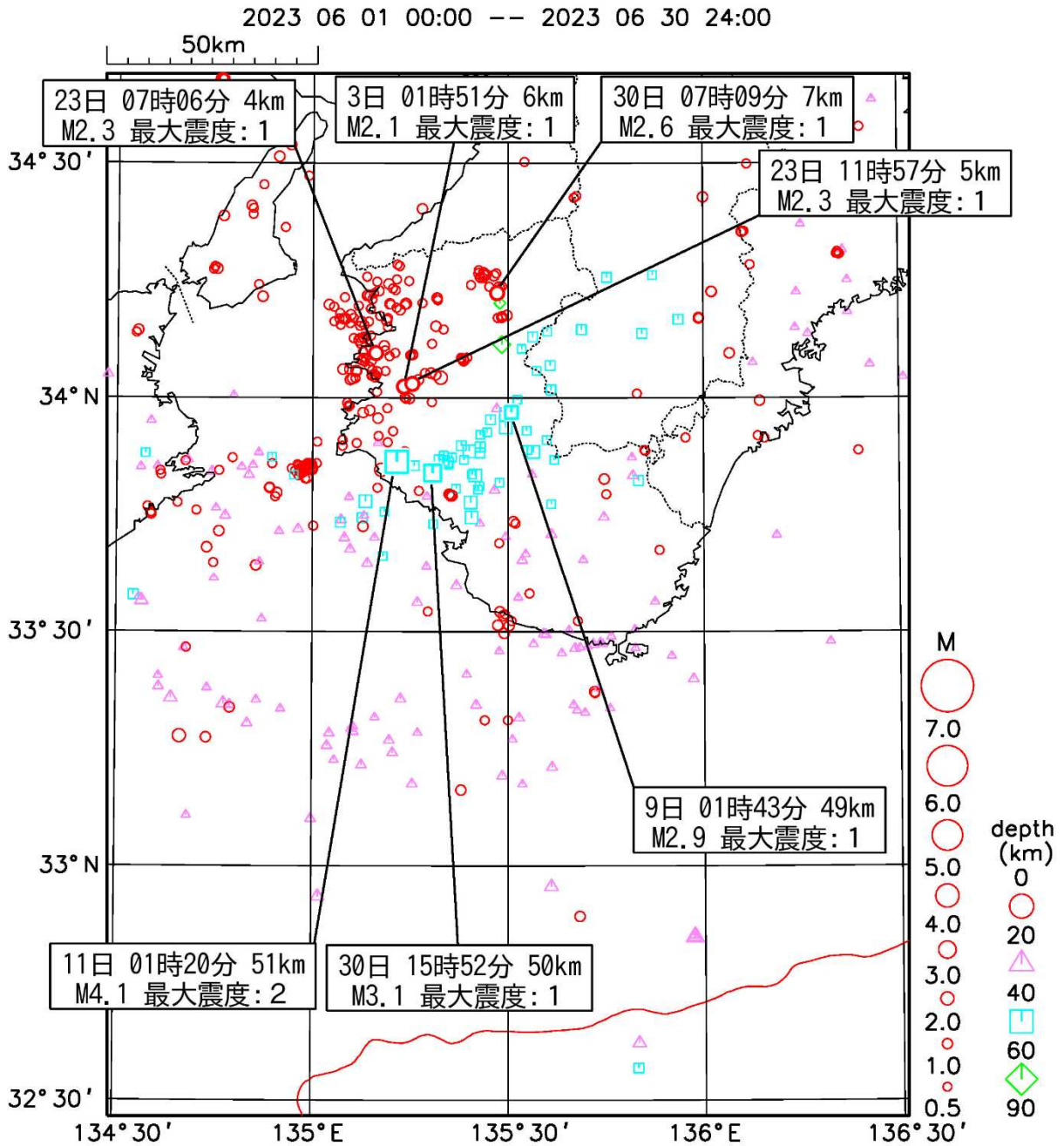
震度計の設置場所や設置の仕方	・・・・・・・・ 7
----------------	------------

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

1. 和歌山県の地震活動

【震央分布図】

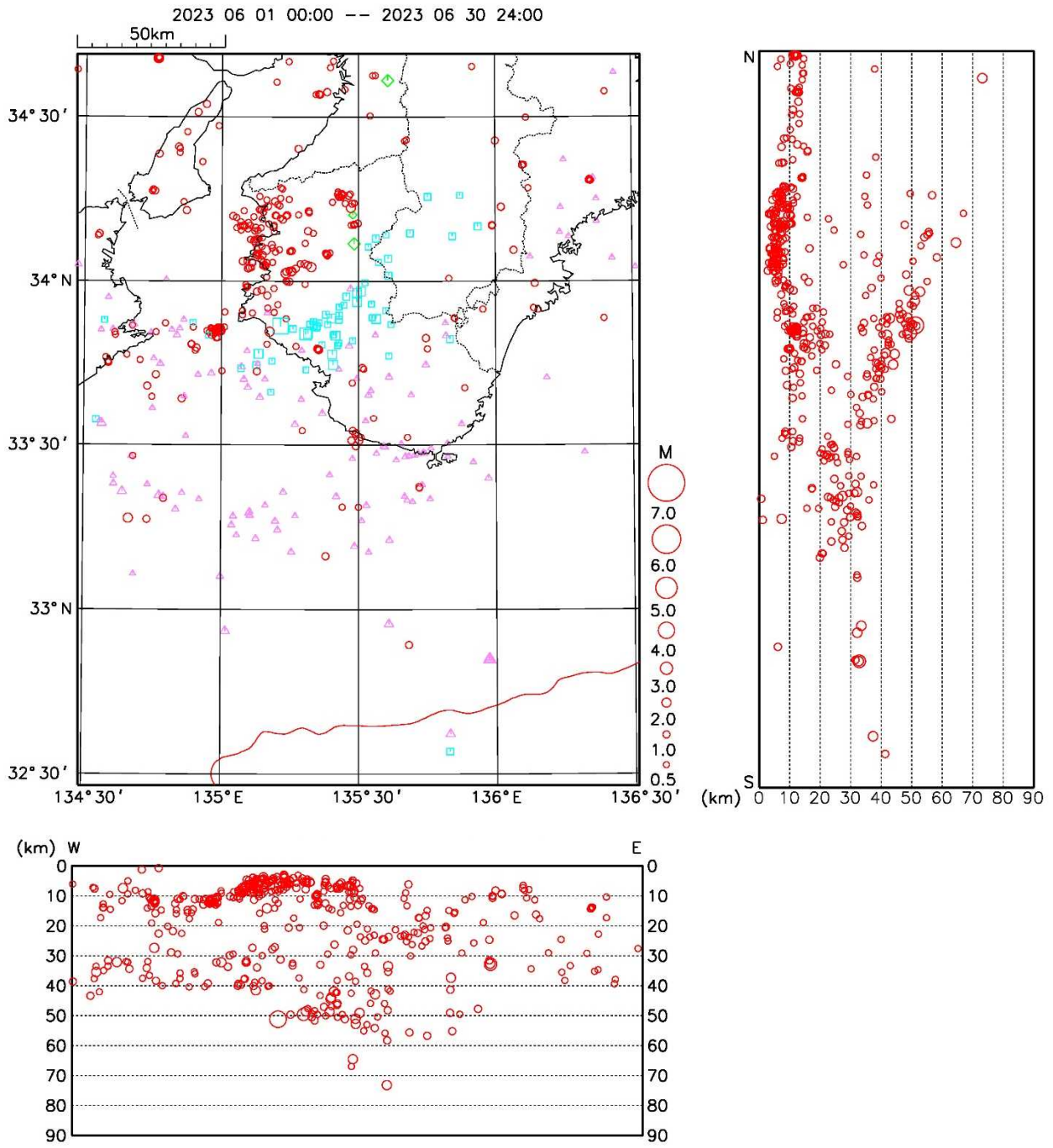


【概況】

6月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0以上の地震は32回（前月は37回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、11日01時20分の和歌山県北部の地震（深さ51km、M4.1）でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

6月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、7回（前月7回）でした。

【断面図】



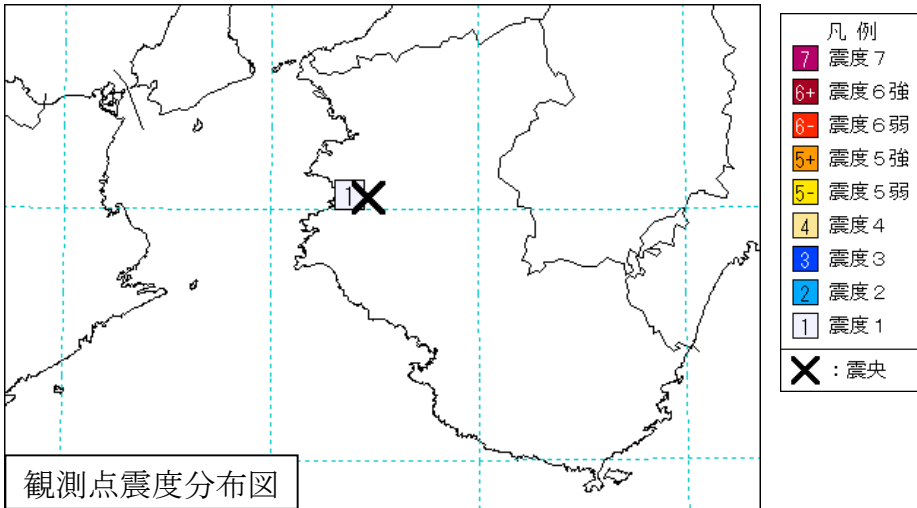
【和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧】

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2023年06月03日01時51分	和歌山県北部	34° 01.4' N	135° 14.0' E	6km	M2.1
和歌山県 震度 1：湯浅町青木*					
2023年06月09日01時43分	和歌山県北部	33° 58.1' N	135° 30.5' E	49km	M2.9
和歌山県 震度 1：田辺市本宮町本宮*					
2023年06月11日01時20分	和歌山県北部	33° 51.8' N	135° 12.9' E	51km	M4.1
和歌山県 震度 2：有田市箕島, 御坊市菌, 御坊市湯川*, 湯浅町青木*, 和歌山美浜町和田*					
和歌山日高町高家*, 由良町里*, みなべ町土井, みなべ町芝*, 日高川町土生*					
紀美野町下佐々*, 田辺市中辺路町栗栖川*, 田辺市鮎川*, 田辺市中屋敷町*					
白浜町日置*, 上富田町朝来*					
震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*, 海南市下津*, 橋本市東家*					
橋本市高野口町名倉*, 有田市初島町*, かつらぎ町丁ノ町*, かつらぎ町花園梁瀬*					
高野町役場*, 和歌山広川町広*, 日高川町川原河*, 紀の川市粉河					
紀の川市那賀総合センター*, 紀の川市貴志川町神戸*, 紀の川市桃山町元*					
紀美野町神野市場*, 有田川町清水*, 有田川町中井原*, 岩出市西野*					
田辺市中辺路町近露, 田辺市本宮町本宮*, 田辺市龍神村西*, 新宮市熊野川町日足*					
白浜町消防本部, すさみ町周参見*, 串本町串本*, 那智勝浦町天満*					
太地町太地暖海公園*, 古座川町高池					
2023年06月23日07時06分	和歌山県北部	34° 05.7' N	135° 09.6' E	4km	M2.3
和歌山県 震度 1：海南市下津*, 有田市箕島, 有田市初島町*					
2023年06月23日11時57分	和歌山県北部	34° 01.8' N	135° 15.2' E	5km	M2.3
和歌山県 震度 1：湯浅町青木*					
2023年06月30日07時09分	和歌山県北部	34° 13.4' N	135° 28.3' E	7km	M2.6
和歌山県 震度 1：紀の川市粉河					
2023年06月30日15時52分	和歌山県北部	33° 50.4' N	135° 18.4' E	50km	M3.1
和歌山県 震度 1：御坊市湯川*, 田辺市中辺路町栗栖川*					

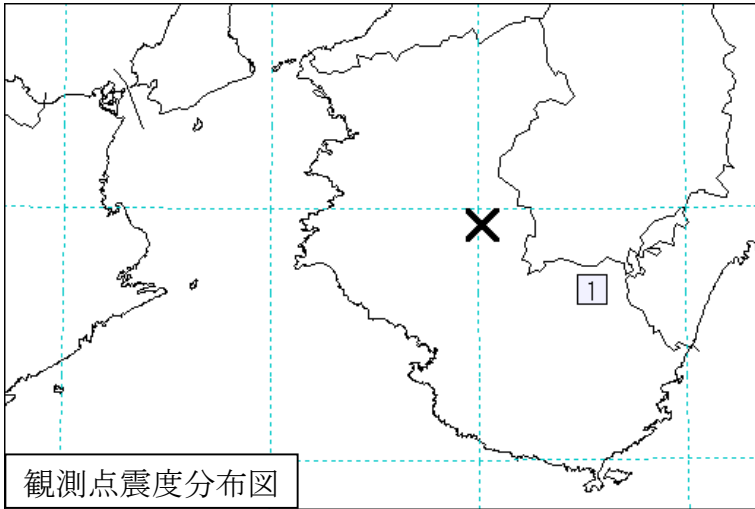
地点名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【震度分布図】

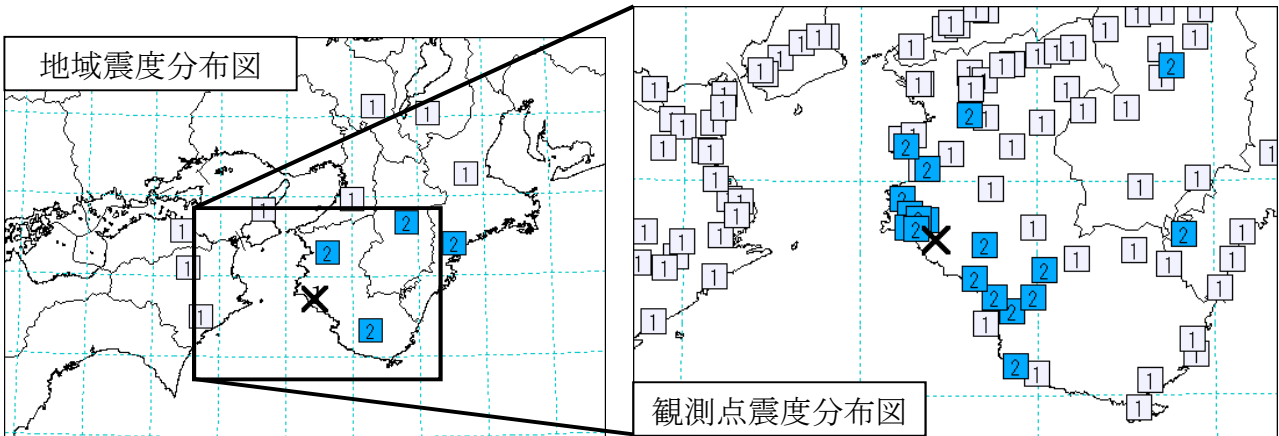
2023年06月03日01時51分 和歌山県北部（深さ6km、M2.1）



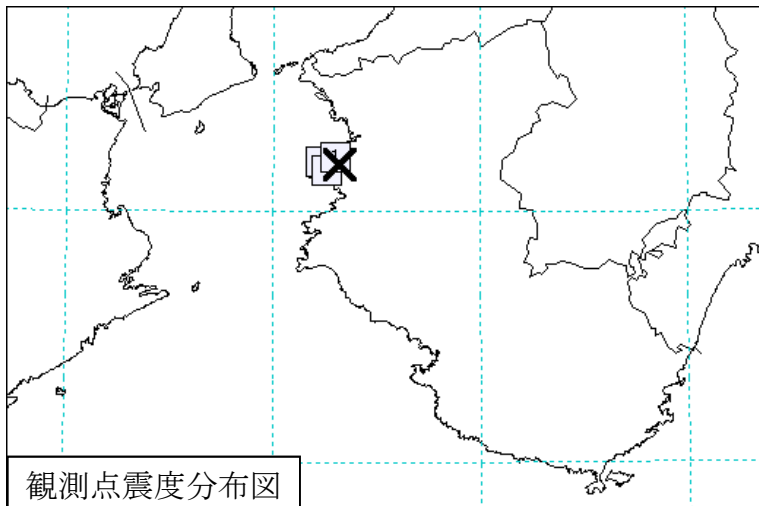
2023年06月09日01時43分 和歌山県北部（深さ49km、M2.9）



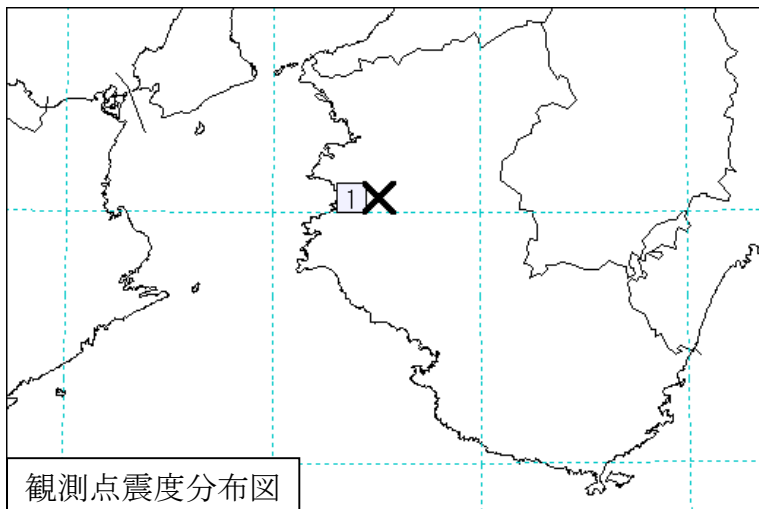
2023年06月11日01時20分 和歌山県北部（深さ51km、M4.1）



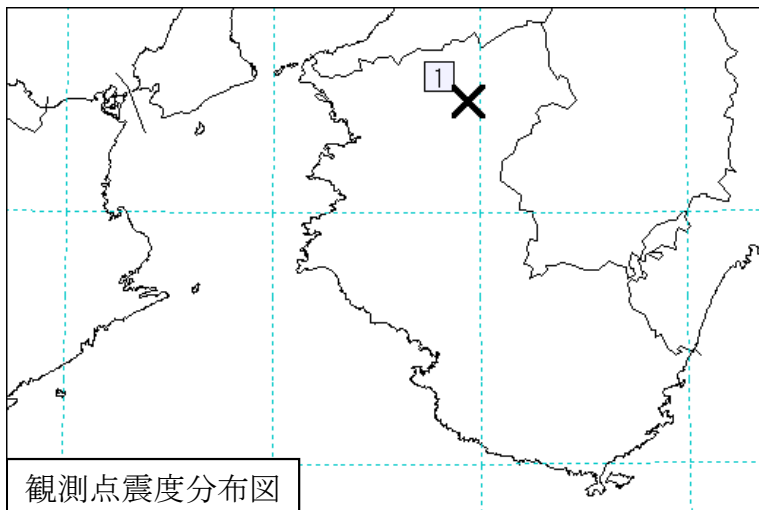
2023年06月23日07時06分 和歌山県北部（深さ4km、M2.3）



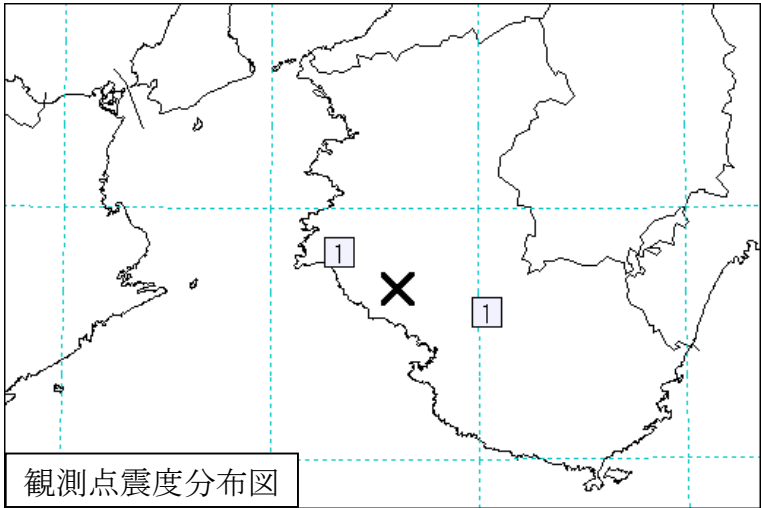
2023年06月23日11時57分 和歌山県北部（深さ5km、M2.3）



2023年06月30日07時09分 和歌山県北部（深さ7km、M2.6）



2023年06月30日15時52分 和歌山県北部（深さ50km、M3.1）



2. 地震一口メモ

震度計の設置場所や設置の仕方

全国的な震度の観測は、明治17年（1884年）から始まりました。観測開始当初から長い間、気象台等で観測者が体感や周囲の状況などから判断して震度を決めていましたが、平成3年（1991年）からは震度計が導入され体感による観測と併用するようになり、平成8年（1996年）4月から全て震度計で観測するようになりました。

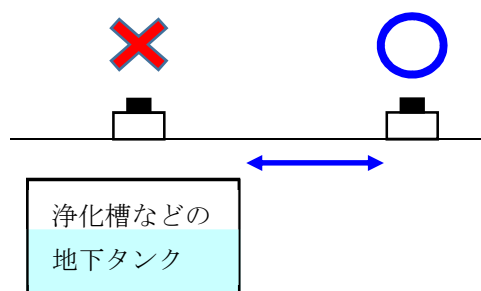
現在では、気象庁が発表する震度は、発災後の初動対応の判断基準として多くの防災機関に利用されるなど、地震防災上不可欠なものとなっています。

正確な震度を観測するためには、震度計をどの場所にどのように設置するかが重要であることから、気象庁は「震度計設置環境基準」を定めています。

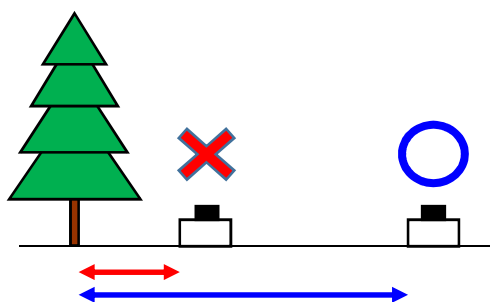
この基準をもとに、震度計を設置・管理している各機関が設置環境調査を行い、気象庁が震度計設置環境の良否判定や技術的助言を行っています。

以下は、「震度計設置環境基準」の一例です。

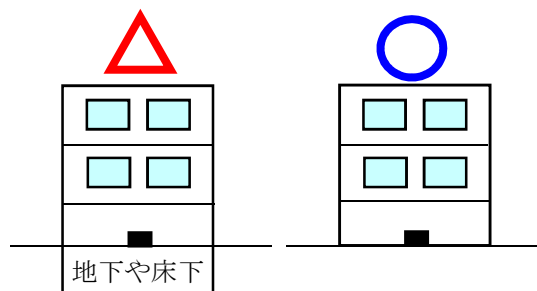
（図中の■は震度計センサー）



震度計の直下付近に空洞や地下タンク、地下埋設管等がある場合、これらの局所的な影響を受けるおそれがあるため、そのような場所は避ける必要があります。



震度計の近傍に、鉄塔、ポール、樹木などがある場合には、これらの揺れが震度観測に影響を及ぼすおそれがあるため、できるだけ距離をとる必要があります。



建物内に設置する場合は、上層階ほど揺れが大きくなることから、1階に設置します。下に床下や中空階などの空間がある場合は、一定の観測データが蓄積されてから、異常な震度を観測していないか再調査します。



駐車場内に設置する場合は、車の衝突などによって誤った震度を観測するおそれがあることから、保護柵を設置するなどの対策を講じます。

【気象庁HP】ホーム > 知識・解説 > 正確な震度観測を行うために

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/shindo-kansoku/>